

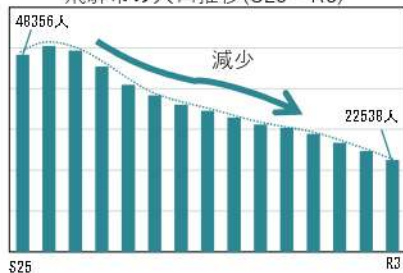
なえどこ ～「学ぶ・見る・触れる・集まる」四位一体の広葉樹施設～



【なえどこ】とは植物の苗を育てるために環境を整えた場所の事です。
今回の提案では、広葉樹への理解や興味、その芽生えを「苗」として、それを育てるために4種類の環境を整えた施設を提案します。

01【飛騨市の想い】人口減少とまちに必要な機能

飛騨市の人口推移(S25～R3)



まちに必要な機能たち



私たちが飛騨にお邪魔した際、竹田さんから、飛騨市の**人口減少に対する問題意識**について、さらにそれを解決するため**広葉樹という飛騨市の強み**に力を入れていることも伺いました。実際、私たちが広葉樹に触れてみて、その多様な性質に、幅広い可能性があると感じました。
さらに、今回の計画に関して、この敷地に**どのような場所が必要か**についてもお話を伺いました。具体的には、集会所、子育ての場所、広葉樹の学び場・ショールーム、古川祭りのスペース、イベントスペース、セミナー室、ツアー受け入れ拠点、広葉樹の工房・ギャラリーなどの機能がこの土地に必要とされている事を知りました。

02【私たちの回答】四位一体の広葉樹施設

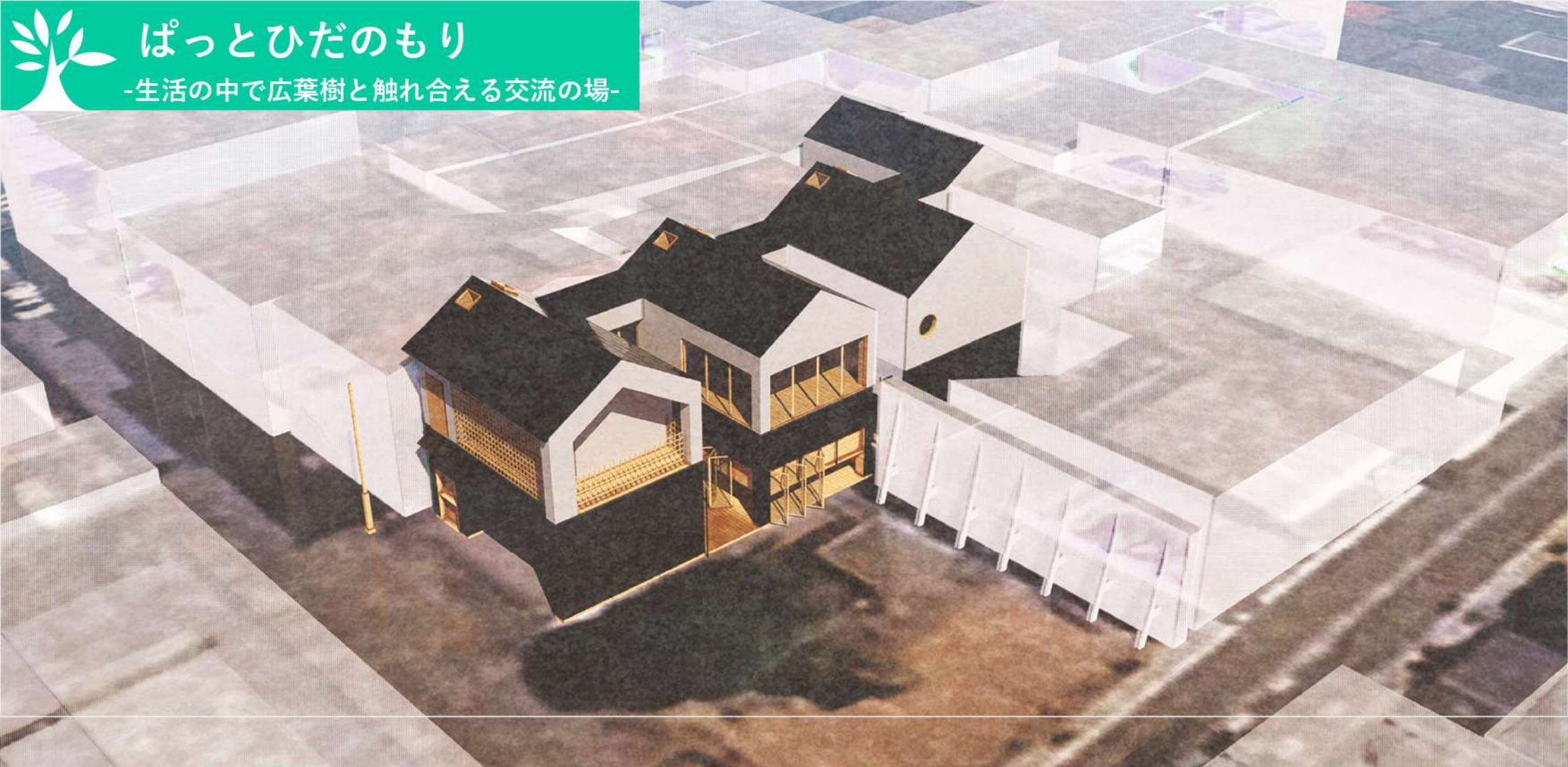


このような課題、用途に対して、私たちはその要望された用途について分析、分類し、それぞれが集客力を持ち、広葉樹の事を広めることができるような**四つの居場所「学ぶ」「見る」「触れる」「集まる」**を作ることと回答いたします。
これら四つの居場所を、一つの大きな空間の中に、**仕切りを取り払って配置**することで、お互いの活動が他に漏れ出し、異なる居場所への興味が生まれ、ここに訪れた人が「学ぶ」「見る」「触れる」「集まる」という、**広葉樹を心から理解するための道筋を辿る**ことができます。
このような施設を計画する事により、広葉樹の発展と関係人口の増加、それに伴う飛騨市の活性化を目指します。



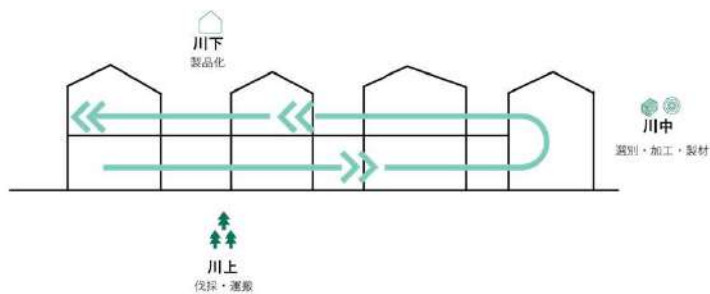
ぱっとひだのもり

-生活の中で広葉樹と触れ合える交流の場-



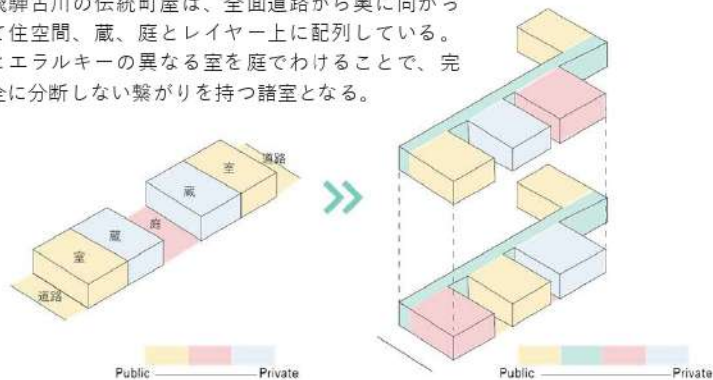
広葉樹を学ぶアーケード

飛騨古川の森林資源への関心を高めていくために、広葉樹が消費者に届くまでの仕組みを展示、体験できるようにしたものをアーケード内に配置する。動線を通してこの学びを得ることができる。



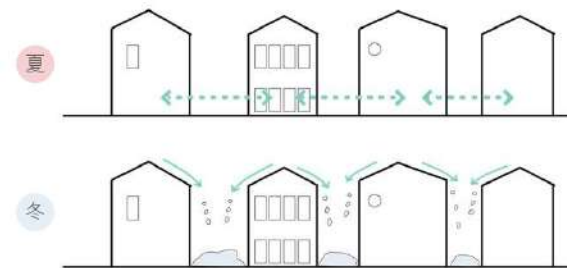
伝統町屋のもつヒエラルキー

飛騨古川の伝統町屋は、全面道路から奥に向かって住空間、蔵、庭とレイヤー上に配列している。ヒエラルキーの異なる室を庭でわけることで、完全に分断しない繋がりを持つ諸室となる。



地域の気候と伝統に溶け込んだ形状

飛騨古川の伝統町屋で用いられている手法を用いる。屋根に勾配をつけ、敷地内に設えた庭に雪を下ろすというものである。積雪がない季節には、庭と室を一体的に利用できる。



もぎ 漏れ木 がつなぐシェア商店

00 市の目指す姿



関係人口増加



地域内/外交流



若手人口増加



広葉樹の仕組作り



六次産業化

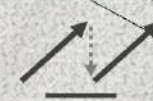


祭り促進

01 市の課題



認知度



育成と定着



人口減少・高齢化



広葉樹 見えない



公共建築の値上げ

02 広葉樹の課題



9割 チップ



VUCA



ブラックボックス化



手間

03 提案

【キーワード1】

製材プロセスから漏れた木材を中心に
天然乾燥以降のプロセスを建築に。



【キーワード2】

シェア商店と関係人口の増加



【キーワード3】

森と関わる日常が暮らしの風景

